『寝取らりるれろ』収録台本　／　サークル：エネルジコ！

※複製、データの加工、第三者への転送・再配布等は固く禁止しております。
個人での閲覧にとどめ、お楽しみください。

※こちらの台本は特典として公開するにあたり内容を抜粋・編集しております。
実際の収録台本とは一部異なりますこと、ご了承ください。

■キャラクターの設定■

【名前】伊南　匡輝（いなみ　まさき）
【職業（年齢）】舞台俳優（２９歳）
【身長／体重】１７８ｃｍ／６２ｋｇ
【一人称／二人称（主人公に対して）】俺／お前（素の状態では「きみ」）
【性格・設定】
・主人公の大学時代の友人。一度主人公に告白するも、振られている。
（しかしその後も猛アタックを続けて見事に心を射止め、結婚している）
・ルックスがよく、明るい性格でノリも軽いため女性からは人気がある。
・今回、「お願いがある」と主人公から呼び出され、久々に会う（という設定）。
「夫の願いを叶えるために私を抱いてほしい」という無茶苦茶な願いを
これ幸いとばかりに受け入れる、懐が広く少しクレイジーな男（という設定）。
・ノリや口調は軽いが、いざ寝取りプレイが始まるとフルスロットルで主人公を
口説き、このまま自分の女にしてしまおうと熱烈に攻めてくる。
・本性は妻大好き男。寝取られに興味はあるが他の男には絶対に抱かせたくない
矛盾を抱え、「俺の俺による俺のための寝取られ」を思いつき実行に移した
とてもクレイジーな男。なんだかんだ茶番に付き合ってくれる妻が大好き。
・実は、結婚した今でも自分ばかり妻のことが好きなんじゃないかと不安に
なってしまう繊細さん。疑似寝取られプレイを受け入れてもらえるか試すなど、
愛情の確かめ方がかなり独特。設定や世界観に入り込みやすい。

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

【トラックリスト】

■トラック１：あなたにしか頼めないコト
■トラック２：始まってしまった愚かなアソビ
■トラック３：陥落、そこから先は無限快楽地獄
■トラック４：祭のあと
■トラック５：？？？〈ＥＸラウンド〉

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

【トラック1】あなたにしか頼めないコト

場所：主人公が夫と暮らすマンションの一室／昼

※休日の昼下がり。主人公は夫の頼みで間男に抱かれることになり、その相手として大学時代の男友達である匡輝を選び、自宅に来てもらうことに。匡輝には「あなたにしかお願いできないコトで相談がある」とだけ伝えている（という設定。主人公も匡輝も役に入り込んでいるだけで、すべて把握済み）。過去に一度告白されたことがある微妙な距離感の男友達の来訪。鳴り続けるインターフォンに、主人公が〝本当にやるの？〟と戸惑いながら玄関の扉を開けるところからスタート。

※主人公がゆっくり玄関に向かい、鍵を開けてドアを開ける。

匡輝「（緊張から少しぎこちなく挨拶）……よっ。久しぶり」

※主人公、まだこの茶番に乗り切れずにジト目で夫を見る。

匡輝「（苦笑して）なにその顔。自分で呼んどいてそんな微妙な顔する～？傷ついちゃうナー。困ってるっぽいから来てあげたのになァ～」

匡輝「とりあえず、お邪魔しますよっと……（玄関の中へ足を踏み入れる）」

匡輝「（玄関で靴を脱ぎながら）去年の同窓会ぶりだっけ～？あのときはお互い別グループだったからあんまり話せなかったんだよなぁ。ん……家にはお前ひとり？」

※主人公「うん、ひとり」

匡輝「（フローリングにあがり、スリッパを履く）っと……旦那は仕事か。そりゃよかった。三人で～なんて何話していいかわかんないし……」

匡輝「（その場に突っ立っている主人公に向かって白々しく）ほら、案内してよ。初めて来る家で勝手もよく知らないんだから。リビングあっち？（主人公を引き連れて歩き出す）」

匡輝「（リビングの中央へ歩みを進めながら、部屋の中を見回して）お～。いい部屋住んでんね。旦那稼いでんだ？　ふーん……

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

（一人で歩みを進める）

（立ち止まり、振り返って）大事にしてもらってる？」

※主人公「うん、すごく」

匡輝「（少し嬉しそうに）そう。それはよかった」

匡輝「（どさっとソファに身体を預ける）はぁ……」

※主人公、とりあえずお茶を出そうかと台所に向かおうとする。

匡輝「（主人公を引き留めて）あ、お茶とかいいから。

気ぃ遣わなくていい。さっさと本題に入ろ。こっち来て」

※主人公、ソファに座る匡輝のもとまで歩み寄る。

匡輝「で？　大学時代の男友達を召喚して何用ですか？

〝あなたにしか頼めないコトがあるの〟なんて予告されたから

匡輝くんドキドキしちゃーう」

匡輝「〝金貸して〟とかだったらどーしよ。

でもお前の性格からしてそれはナイんだよなぁ……。

となると、俺にしか頼めないことって何？」

※主人公、事前の打ち合わせだと寝取られの話を切り出すことになっているが、土壇場になって躊躇っている。

匡輝「もじもじしてないで。何。困ってんでしょ？」

匡輝「（声をひそめ、夫の顔を見せて優しく）……一旦座れば。隣きて」

※主人公、匡輝の隣に腰掛ける。

匡輝「……はい。じゃああらためて。ご用件をどうぞ」

※主人公「（躊躇いがちに）……旦那さんが」

匡輝「（小さい声で話す主人公に顔を寄せて）うん、旦那が？　旦那がどうした」

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

※主人公「特殊な性癖持ちで……」

匡輝「特殊な性癖持ち。ほう。具体的には何。どんなやつ」

※主人公「寝取られ？　みたいなのが好きらしくて」

匡輝「寝取られか～～。うんうん、それで？」

※主人公「なんか……私が他の男の人に抱かれてるとこ、見たいんだって」

匡輝「なるほどなるほど。
旦那はお前が他の男に抱かれるとこを見たがっている、と……。
（話を続ける主人公を食い気味に制して）あーもういい皆まで言うな。
……だいたいわかった。お前は、旦那の願いを叶えてあげたいわけだ。
それで、知らない男相手だとちょーっと怖いから、
付き合いの長い匡輝にしとこうかな～……って？」

※主人公、頷く。

匡輝「（ソファに深く凭れて一息）ふー……なるほどなるほど……。
……あのさー？　記憶違いなら悪いんだけどぉー……俺、大学の頃に
お前に振られてないっけ？」

※主人公「まあ……振ったかなぁ」

匡輝「（体を起こして主人公を見ながら）
だよなぁ！　そうだよな。記憶違いじゃないよな。
（ドン引きして）……えっ、なんなの？　鬼？」

※主人公「（心外そうに）鬼じゃないもん！」

匡輝「（信じられない様子でオーバーに）いやぁ～～。
一度振った男に夫婦のプレイ手伝わせるのは充分鬼だと思うよ～～？
昔のこととはいえ……いやいやいやぁ～。人の心がないッスわ……」

※主人公は夫（匡輝）にお願いされてこの茶番を演じている身なので
〝なんでこんなに責められないといけないんだ〟と段々腹が立ってくる。

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

※主人公「（内心怒って）だよね。じゃあやっぱりやめとこうかな」

匡輝「（焦って）えっ⁉　やっぱりやめとく、って……いやいやいやいや、（立ち上がろうとする主人公を抑えて）待って待って、ストップ。どうどうどう……」

匡輝「（素に戻って小声で）なんで。怒った？　いじめすぎた？　ごめんごめんごめん……。（咳ばらいをして仕切り直し、芝居に戻る）まあ……アレだ。……抱かせてくれるんなら、抱きますけど？」

※主人公「（仕方なく芝居に戻って）……私のこと抱ける？」

匡輝「そりゃあ、ねぇ？　一度は付き合いたいと思った女なんだから抱けるでしょ。そりゃもう、余裕よ。余裕。うん……。（少し考えて）……ただ―……そうだなぁ……（顔を寄せて）……気分を盛り上げたいので、ちゃんと誘ってもらえると嬉しいな」

※主人公「……ちゃんと？」

匡輝「うん。……俺の目を見て、〝私とセックスしてください〟って言って」

※主人公「（困惑）ええっ……」

匡輝「（楽しそうに笑って意地悪く）なんで。言えないの。またまた～言えるでしょ～。ほらほら。グッとくるやつくださいよ。（意味深に）……旦那のこと喜ばせたくない？」

匡輝「ほら。言ってみ。（急に耳元に唇を寄せ、感情を込めてエロく囁く）〝私をぐちゃぐちゃに犯してくださいっ……〟とか、〝匡輝くんのチンコでアンアン言わしてっ……〟とか。……（喉で笑って）ははッ。そういう露骨なのでも大歓迎♡」

※主人公、調子に乗っている匡輝の顔面にクッションをぶつける。

匡輝「（枕をぶつけられて）ぶっ！　待っ……ちょっ、ちょっ、ちょっ！

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

（困って）え～……（舌打ち）しくじったぁ～……。
欲張らなきゃ言ってもらえそうだったのに……」

匡輝「（主人公のほうを向いたまま、自分の手を枕にしてソファに凭れる）ん……」

**匡輝「ちょっと初心なとこ全然変わってないよな。
大学の頃もいっぱいからかって怒られたなぁって、なんか今思い出した」**

匡輝「（目の前にある主人公の手を取ってやわやわと握る）」

※主人公「え……なにこの手」

**匡輝「んー……？　いいじゃん、手くらい握らせてよ（笑）
これからもっとすごいコトするんじゃないの」**

**匡輝「（手を握りながらしみじみ）…手ぇ握られるだけでドキドキしてんのにねぇ。
こんなに初心なくせに、なんでヤバイ性癖の男と結婚しちゃったんだろ」**

※主人公「……好きになっちゃったんだから、仕方ないでしょ」

匡輝「（小さく笑って）そ。……そうだねぇ。好きになっちゃったら仕方ないか」

匡輝「……チューは？　していい？」

※主人公「えっ……どうだろ」

匡輝「なにそれ（笑）　寝取られやるんならラインは決めとけー？（笑）」

**匡輝「（顔を近づけ、小声でヒソヒソと）キスって、気持ちが入る感じしない？
自分の女を他人に抱かせたがるような男でも、
〝心まで取られるのは嫌〟って奴が大半だと思うよ」**

※主人公「じゃあ、キスはなしで」

匡輝「ああそう？　キスはやめとく？　旦那のために」

※主人公「うん」

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

匡輝「そっかそっかー。旦那想いだね～。
偉いね～そっか～（流れるように唇を奪ってキス）ん……
（ちゅっ、ちゅっ）はぁっ……んっ（はむっ）ふっ…んんっ…（ちゅ…）」

※主人公「（流れ無視のキスに驚いて）ん！？」

匡輝「（唇の表面をつけたまま、声をひそめて悪戯っぽく）ん？　なに。
ダメって言えばしないでいてくれると思った？（笑）んー……（ちゅぅっ）
……残念。そこまで優しい男じゃないんだなぁ、俺は（ちゅっ）」

匡輝「ん……（ちゅ、れろ）ふ、んんっ……
（ちゅっ、ちゅ）んーっ……（ちゅぅっ）……はぁ……（ちゅっ…）
ん……（キスしながら上から抑え込み、主人公の頭をソファに倒す）」

匡輝「ほらもっと舌。出せよほら（れろ…ちゅっ……）んむ……ん……（ちゅ）
旦那裏切ってもっとエロいチューしよ……？（ちゅっ、ちゅっ、ちゅ……）」

匡輝「（耳元でぼそぼそと）はぁっ……今のシチュエーションをよーく自覚して。
元は旦那の頼みとはいえ、夫の留守中に別の男 部屋にあげてんだぞ。
それでこんな風に口吸いあってさ……（口にキス）
浮気だろ、普通に」

※主人公「違っ……」

匡輝「（キスを続けながら）違う……？（ちゅぅっ）どう違うって？」

※主人公「私が好きなのはっ……」

匡輝「私が好きなのは、旦那？（ちゅっ）
……そんなん、一時間後はどうなってるかわかんないじゃん（深いキスへ）
（ちゅぅっ）んんっ……（ちゅっ）ん…ふっ……（ちゅぅっ、ちゅっ）
んー……（じゅるっ……）舌しごかれるの好き？　んー……うまいうまい。
もっと口開けてみよ……（れろ…）んー、そうそう……（じゅるるるっ）
んんっ……（ちゅっ、ぺろっ）ん……（口を離す）はぁっ……」

匡輝「ハッ……舌がピリピリする（笑）
（最後に唇にチュッとキス）ん……。……はッ。
本気のチューきもちぃね？

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

俺たちキスの相性めちゃくちゃいいと思うんだけど……
そこんとこどう思います？」

※主人公、バツが悪そうに匡輝を睨む。

匡輝「（楽しそうに笑って）ふふん……（耳元で挑発的に囁く）
終わる頃には、旦那じゃなくて俺がいいって言わせてやるよ」

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

【トラック2】始まってしまった愚かなアソビ

場所：主人公と夫の寝室／　昼

※寝室に移動し、夫のリクエスト通り先にビデオカメラの設置をする二人。
　匡輝が最後の調整をし、主人公はベッドの上でそんな匡輝を見守っている。

匡輝「（カメラの向きを調整しながら）
うーん……カメラはこんな感じかな」

匡輝「これで撮影した俺らのセックスを、後で旦那が鑑賞するわけだ。
……なあ、ぶっちゃけさぁ。自分の寝取られ趣味のために
こんないいビデオカメラ買って用意してる旦那のこと、どう思う？」

※主人公「（意地悪く）なんで旦那がこのために買ったって知ってるの？」

匡輝「（少し動揺して）ん？　え？　あー……いや？　なんとなく。
たぶんこのために買ったんだろうなぁって……
（誤魔化して）はーいじゃあ、録画ボタン押しまーす（ぽちっ）」

匡輝「さあさあ始まりましたよーっと……（ベッドに膝を突く）
ん……（主人公の目前に移動して座る）……ふぅ。
このベッドで夫婦仲良く寝てるんだ？　ほーん……」

匡輝「（他人事のように話しながら、妻を気遣って）これは予想だけど、
旦那が〝ベッドは一台がいい〟って言いだしたんじゃないの」

※主人公「そういえば、そうだったかも？」

匡輝「やっぱり。だと思った。
実際どうよ？　人と寝るのは落ち着かないって人もいるって聞くし……。
夜ちゃんと眠れてる？」

※主人公「うん、私は平気」

匡輝「そう……ならいいけど」

※主人公「匡輝くんは？」

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

匡輝「えっ、俺？」

※主人公「人と同じベッドでも平気なタイプ？」

匡輝「ああ、俺は……全然平気。気にならないタイプ。
むしろ好きなコの匂いや体温で超リラックスできるから―……って、
いいんだよ俺の話は別に（笑）」

匡輝「んっ……（主人公に覆い被さりながら、白々しくおどけて）
そんな円満夫婦の奥さんをこれから寝取るなんて、
さすがに罪悪感わいちゃうナー」

※主人公「（呆れて）心にもないことを……」

匡輝「あっ、バレた？（笑）　やぁ、ゾクゾクしちゃうねぇ……
（耳に口をつけて、ヒソヒソと）やっと俺の女にできるんだーって感じ。
（耳にキス）…たまんないよ。想像で何度も抱いた体に触れると思うと…」

※主人公「だから別に…匡輝くんの女になるわけじゃっ……」

匡輝「まだそんなこと言ってるんだ（笑）
旦那への義理立てがどこまでもつか見物だな……（耳舐め＆耳にキス）
ふ、んんっ……（ちゅっ）はぁっ、ん、ふ……（ちゅっ）
（れろ）んっ……（ちゅっ）ふっ……んぁっ……（れろ）」

※主人公「（感じながら）ねぇ……ゆっくりしないで、さっさと済ませよう？」

匡輝「（ねっとり耳の中を舐めながら）んぁ……？　やー、だめだめ（れろ…）
丁寧にやるよー？　（ちゅ）んんっ……（ちゅぷっ、ちゅっ）
旦那のリクエストなんでしょ？（じゅるっ）じゃあ急ぐ必要なくない？
ほらこっちも……（反対の耳へ）んんっ……（耳舐め）」

※主人公「（感じながら）やだっ……丁寧にしなくていいっ」

匡輝「（こちらの耳もねっとり舐めて）なんで？　気持ちよくなるのが怖い？
（耳たぶをカプッと噛む）ぁむ……んッ……（じゅるっ…）んんっ……。
……旦那以外で気持ちよくなっちゃうのが怖いのか……（ちゅぅっ）」

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

匡輝「（コソッと興奮した息で、耳の中をぐちゅぐちゅ舐めながら）いいよぉ、気持ちよくなって……っ（れろっ）耳ん中こうやってグチュグチュされてさ（ちゅっ、じゅるっ）頭の中まで犯されて（ちゅうっ）俺の声すら気持ちよくなっちゃってっ……（じゅるっ…）んっ……！（畳みかけるように）ほらっ…（ちゅうっ）もうすっごい腰動いてる。気持ちいいんだろ？（れろ…っ）いいよ。感じていいよ。いいよっ……（じゅっ！）ほら気持ちいい気持ちいい気持ちいいっ……！（掠れ声で小さく独り言）あーかわいっ…（ちゅうっ！）んんッ……‼」

※主人公「あッ……‼（達する）」

匡輝「っ……！（イってる主人公に対し、一瞬だけ興奮の息を吐いて）はぁッ、はぁッ……はー……（主人公の顔を見る）……あはは。（主人公の耳に触りながら）耳べちゃべちゃにしちゃった」

匡輝「涙目になってる～～（笑）　ちょっとイっただろ。そんなに感じたんだ？　なに、欲求不満？（笑）」

匡輝「やー。こんだけ乱れてくれるんなら俄然やる気でるわ。すげぇ興奮した……もっといろいろしたくなっちゃうなぁ」

※主人公「（達して疲れ気味に）もういいよ……挿れよう……？」

匡輝「まだだって。まだ挿れない。お前の旦那はそんな下手クソなわけ？　ばばっと入れてさっさと出しちゃう、みたいな」

※主人公「そんなことはないけど……」

匡輝「だろ？　俺だって負けるわけにはいかないの。……服めくり上げるから、腕どけて（服をめくって胸を出させる）」

匡輝「わお、ノーブラ。（主人公の裸の上半身を俯瞰）……おー。乳首ツンってなってる。（胸に顔を寄せて）やらしいんだぁ～」

※主人公「（羞恥で怒って）もうっ」

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

匡輝「（胸の谷間で深呼吸）すぅー……お前の肌の匂いがする。
ん……（谷間に鼻先をぐりぐり押し当てて）んー……
こんな香り毎日嗅げたら最高だな……」

匡輝「（胸に顔をうずめたまま、ちらっと主人公の様子を窺って意地悪く）
……なに。焦れったそうな顔してんね。早く乳首舐めてほしい？」

※主人公「そんなことないっ……」

匡輝「ふーん……？　……なあ。こっち見て。……そう。見てて。
（勿体ぶってゆっくり）俺の舌先が…（舌を出しながら）こーやっへ……
（舌先で乳首を舐めながら）ん……乳首をチロチロっへ……あむ……」

※主人公、恥ずかしくなってバッと目をそらす。

匡輝「（引き続き乳首を舐めながら）こら。目ぇそらすな。見てろって……
んんっ……（ちゅっ、ちゅぅっ……）誰にされてるかちゃんと見てろ。
……ほら。つんって勃ってる乳首、超エッチじゃない……？
（れろれろ……）ふ…んんぅ……（ちゅっ）ん……（ちゅぱっ）
ふ……（ちゅっ、ちゅぅっ）んん……んんーっ……！」

匡輝「エロ乳首完成～（笑）
もう片方もちゃーんと口の中で、可愛がって……（逆の乳首に吸い付く）
んんっ……（ちゅっ）んんむ……（ちゅぅっ）おいし……（れろれろ…）
さっき舐めた唾液まみれの乳首は、ほら。
指でこうやってピンピンピンッて……」

※主人公、両方の乳首への刺激に驚き〝ビクッ〟と体を強張らせる。

匡輝「（引き続き乳首を舐め、もう片方の乳首を指で刺激しながら）
どっちの乳首も気持ちいい？　それはよかった……ン…（ちゅっ）ぅっ…。
……ん？　気持ちぃの胸に集まってきちゃうの？（れろれろ……）
それは……大変そう（笑）んぅっ……（ちゅぅっ）
腰暴れちゃう？　いいよいいよ（ちゅぱっ、ちゅっ）
乳首だけでヨがりまくってもぜーんぜん恥ずかしくないから。
（ちゅぷっ…）……うん。ぜーんぜん」

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

匡輝「（引き続き両方の乳首を舌と指で刺激しながら、言葉で興奮を煽って）
片方の乳首は舌でぺろぺろされて（ちゅぅっ）
もう片方の乳首は指でピンピンピンピンはじかれて……ほらほらほら。
ピンピンピンピンピンピン……って。
〝あっ、あっ、あぁーん……〟
……気持ちいいね。
エッチな乳首もっと気持ちよくなりな？（ちゅっ…ちゅぅっ……）
んーそう。もっと胸突き出して……んんっ……！」

※主人公「やっ……ダメっ……！　あぁっ！（達する）」

匡輝「（胸だけでイかせようと主人公の乳首に激しくむしゃぶりつく）
ふ、んんっ……（ちゅっ）はぁっ、ん、ふ……（れろ）んんーっ……
（ちゅぅぅっ）んんっ……ふっ…んーっ……（ちゅっ）ん……
（ちゅ…）ふっ……んぐっ（ちゅぅぅっ）……んっ……！」

※主人公「自分で〝気持ちよくなれ〟って言っておいて……」

匡輝「ん……（乳首から口を離して）……はぁっ。
……うっそ。耳の次は胸だけでイった？
（うっかり素を出して囁く）すごいじゃん、今日。どうしたの」

匡輝「（耳にキス）……そんなに乱れていいのかなぁ（耳舐め）ん……。
……旦那、後で怒らない？　〝俺のときより感じてんじゃねぇか〟って」

匡輝「あ……たしかに（笑）
俺が気持ちよくなれって言ったのに〝どっちだよ〟ってな（笑）
やー。個人的には大満足ですけども……（耳にキス）
（ここから少しずつ本気トーンに）……俺でヨくなってくれて嬉しい。
はぁッ……もっと。もっとしよ。下も舐めたい。
乳首みたいにべちゃべちゃになるまで舐めまわしたい……パンツ脱いで」

※主人公「えっ」

匡輝「（難色を示す主人公を懐柔すべく、反対の耳に移って早口に説得）
いいじゃん、お前も楽しめよ。旦那が〝いい〟って言ってんだからさ。
……アソコもいっぱい舐めてほしくない？
お前相手だったら喜んで舐め犬になるよ、俺……（耳にキス）

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

……ほら、脱いで」

※主人公、さすがに恥ずかしいので渋る。

匡輝「（おどけて）自分で脱いでくれないんだったら脱がしちゃおっかな～。
（脱がしながら、楽しそうに過程を実況）
穿き口のところに指を差し込んでー…？　腿の付け根をさわさわしてー…。
そのまますすーっと腰を撫でて、お尻のほうにーー」

※主人公「ちょっと……！（軽い抵抗）」

匡輝「（主人公の抵抗を抑え込みながら）んっ……照れるなら自分で脱げよ（笑）
自分で脱ぐか、俺に脱がしてもらうか、どっちかにして。はい選んで」

※主人公「……っ！（困って匡輝をじっと見つめる）」

匡輝「……（しばらくじっと見つめ返すが、途中で根負けして笑う）……ふっ。
（独り言っぽく小声で）悩みすぎだろ、かわいいな（口に軽いキス）」

匡輝「（額同士をくっつけて甘く）タイムオーバーです。俺が脱がす。
……ちょーっと膝立ててもらえます？　それで一瞬お尻浮かして」

※主人公、渋々言われた通りに腰を浮かせる。

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

【トラック3】陥落、そこから先は無限快楽地獄

場所：主人公と夫の寝室／　昼

匡輝「ん……（自分の体を起こし主人公のズボンとパンツを下ろす）
……よーしよし。上手に脱げましたね～」

※主人公、匡輝のことを恨めしそうに見つめながら自分の手で局部を隠す。

匡輝「あらー。エッチなポーズ。
（顔を近づけて）手で隠してるそれめっちゃエロいよ？（笑）
丸見えよりエロい」

※主人公、怒って匡輝の胸をバシバシ叩く。

匡輝「（叩いてくるのを楽しそうに受けながら）わ、ちょっ、こら（笑）
叩くな叩くな（笑）　も～…（耳に唇を寄せ小声であやすように）
……なんだよ。濡れてて恥ずかしいの？　ん？（耳にキス）」

※主人公「そりゃ恥ずかしいよ…」

匡輝「そっか（笑）　でもダメ。全部見せて。ちゃんと見たい（耳舐め）
お前のことはなーんでも知りたい……（口にキス）」

匡輝「（甘い雰囲気に満たされながらも、少し寂しそうに）……あーあ～。
こんな風にイチャイチャしてると、段々不思議になってくるわ。
……なあ。なんであのとき俺振られたの？」

匡輝「今みたいに気い許されてたと思うし、
大学で一番仲良いのは俺だっただろ？
こう言うのもなんだけど、〝絶対いける！〟と思って告ったから、
振られたのは結構衝撃で……」

※主人公「今さらそんな話聞きたい？」

匡輝「え？　うん、聞きたい。気になる」

※主人公「うーん……当時はその……顔がなぁ」

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

匡輝「……顔？　（衝撃を受けて）……顔⁉　えっ……顔がダメだった……？」

※主人公、首を横に振って否定。

匡輝「（不思議そうに）……と、いうわけでは、ないのか。
え、でも、じゃあ……顔が何……」

※主人公「顔がよすぎてムリだった」

匡輝「（理解に苦しんで）なッ…⁉　やっ……なんっっっだよそれは……」

※主人公「聞きたいっていうから話したのに」

匡輝「（理不尽な理由だったが、照れくさいし嬉しくもあり複雑な感じで）
だって！　〝顔がよすぎてムリだった〟って何⁉
そんな理由聞いたことねぇよ！
格好いいとは思ってくれてたんだ⁉　ありがとう‼」

匡輝「（脱力して）……え～……そうだったのかぁ～～……知らんかった。
振られ損じゃん、俺……」

※主人公「……怒ってる？」

匡輝「え―……？　や、別に怒ってはな…（怒ってないと言いかけて、思い直す）
……いや、怒るか。怒るな。うん……怒るわ。だって、それでお前は結局
別の男と結婚して……こんなことになってるわけだし」

※主人公「……（いやあなたと結婚したけどな？と思っている）」

匡輝「（空気を変え、急におバカになって）……というわけで復讐クンニをします。
よいしょっ……（主人公の下腹部へと移動）」

※主人公「……なんて⁉（じたばた激しく暴れる）」

匡輝「（主人公の動きを封じながら）っ……復讐だよ、復讐。
だってそんな理由で俺の告白蹴って別の男に走ったなんて、

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

納得いかないだろ（太腿を掴んで秘部に舌を伸ばす）んッ……」

匡輝「（秘部を舐めつつ、たまに太ももの内側に激しくキス）
んーっ……は、ふっ……んぅ…（ちゅぅっ、ちゅっ）
ぜってー泣かす……（ちゅっ、ぺろっ）気持ちよすぎて（ちゅ）
〝おかしくなっちゃう〟ってお前が泣きわめくまで……（ちゅぅっ）」

匡輝「弱いんだろココ（ちゅ）知ってるよ（ちゅっ、ちゅぅぅっ）
クリの皮もたっぷりねぶって…（ぺろっ…）ぁむ……ん……。
指で剥き出しにしたココも、舌先でちろちろちろちろーって……（れろれろ）」

匡輝「（仰け反る主人公の暴れる太腿を両手で抑えつけて）んんっ……！
だめ。逃がさない（ちゅっ）ふ、んんっ……！（ちゅっ）もっと感じて。
はっ、ん、ふ……（れろ）んんーっ……！　はぁっ……舌も入れるから。
（舌入れる）ぁ……おっ……お……（ちゅぷっ）ん……っはぁ。
（自分に暗示をかけるように）狭くて小さいココに初めて入れたのも、
俺じゃない男…って、ふざけんなよなマジで……」

匡輝「んっ、んんッ……！　んんーっ……！
ふっ……（ちゅっ）んぅ……んぐっ（ちゅぅぅぅっ）……んっ……！」

※主人公は快感に耐えかね、匡輝の頭に手をのせて押し離そうとする。

匡輝「んっ……！（ちゅぅっ）
なんだよこの手は……やめねぇっつーの（じゅるっ…）
ほらどんどん溢れてくるよ……？（ちゅるっ）舌入れたとこから……
ん……あぁ…（ぢゅっ）漏らしたみたいな愛液、止まらなくなってる……
んむっ……（じゅるっ）……ん……（くちゅ）」

※主人公は声を押し殺し、強い快感に身をよじっている。

匡輝「イく？（ちゅ）イくときイくって言って（ちゅ、れろっ）んんっ……
〝匡輝の舌でイっちゃう〟って言って（ちゅぱっ…）ちゃんと言って……
（れろれろ）……ん……（秘部を激しく舐める）んっ、んんッ……！」

※強い快感に耐え切れず、主人公は絶頂。

匡輝「（絶頂して跳ねる主人公の腰を掴み、しばらく舐め続けながら）んっ…！

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

ん……ふ……んんっ……（秘部から口を離して）ぷはっ……」

匡輝「ん……（自分の上体を起こす）
（口を手の甲で拭いながら、浅い呼吸を繰り返し）……はー……。
（嘲笑って）はッ……しっかり感じてんじゃん。
昔振った男の舌がそんなに気持ちよかった？」

匡輝「（自分の上の服を脱ぎながら）はー……なんか、泣けてくる。
お前の相手は俺でよかったんじゃないか、って」

匡輝「（ベルトをはずしてズボンと下着を脱ぎながら）
あの時もう少し頑張ってれば……今だって、
もっと普通に抱き合えてたかもしれないのに」

※主人公「（おずおずと）……するの？」

匡輝「（身を屈め、両肘を主人公の顔の左右に突きながら）ん……するよ？
（顔を近づけ、ヒソヒソと皮肉っぽく）だってお願いされたし。
〝あなたにしか頼めないコトだから〟って。俺を頼ってくれたんでしょ？
……ずるいよなぁ。そんなん、断れるはずないじゃん……（唇に甘いキス）」

※主人公「（なぜか罪悪感を覚えて）あの……やっぱりやめて」

匡輝「（唇に熱っぽくキスを繰り返しながら）ん……はぁっ…ン……（ちゅ）
なに……今さら罪悪感わいてきた？（ちゅ）んむ……（れろ）はぁっ
（ちゅ）んっ……ふっ…（ちゅくっ…）ん…（ボソッと）もう遅いよ……
（ちゅぅぅっ）んむっ……（キスしながら膣口に先端をあてがう）ん……」

※主人公「（ドキドキしながら）あ……ゴム、は……？」

匡輝「（欲情しきった顔で雄っぽく）ん？　ゴム…？（ちゅ）
（キスを中断して至近距離で）着けてほしいの？　……ほんとに？
（陰茎の先端で蜜口を嬲りながら）ん……っ……はっ……あ……
ナマで擦り付けられて、嬉しそうに見えるけど……？」

※主人公「そんなことっ……」

匡輝「（腰を揺すり陰茎を擦りつけ、気持ちよさそうに）もう無理だって……。

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

カラダが俺のこと許しちゃってるもん……あぁ…ッ……！　ンンッ……。
このまま抱かれてみたいなって、思ってるんだろ。
だってほらどんどん濡れてくる……んッ……ん……。
あー……チンコべちゃべちゃ。お前ので濡れてんだよ、ほらっ……（ちゅ）
こんなん、簡単に入っちゃうって……（先っぽのみ挿入）んンッ……！」

匡輝「（キスしながら）先っぽ入った。……あーやっべ…（ちゅ、ちゅうっ）
（独り言でぼそぼそ）あーヤバい。ヤバい……（ちゅ……）
ほんとにナマで……（ちゅ、れろ）ん……舌絡めて。俺の舌吸って…？
（ちゅ…）あ、んんっ……（ちゅ、ちゅっ）」

匡輝「（キスしながら、膣口で浅く出し入れを繰り返して）
ん……（ちゅ、くちゅっ）んー……すっげぇヒクついてる（ちゅうっ）
んんっ…んっ！（ちゅっ）んん……っ
（ちゅ、ちゅうっ）っ……あ、無理。もうっ……（ちゅっ）
ごめん……奥まで入るわ……（キスしたまま奥まで挿入）んんッ！」

匡輝「んー……全部入った……（軽くキス）はぁ…ナマきもちぃ～……あッ……。
ん……あ～…ダメ、まじで気持ちいいっ……」

※主人公「（緩い律動に感じて）あっ……あんっ……！」

匡輝「（耳に唇を寄せて意地悪く）チンコ入れられちゃったねぇ？
俺のはどう？　旦那のと比べてさ。……いいトコ届いてる……？」

※主人公「っ……（答えに困る）」

匡輝「（熱っぽく真剣に）……なあ（ちゅ）ん……お前にとっては、
旦那の面倒なお願いをただ聞くってだけなんだろうけど……
俺は違うから（ちゅっ）ん……（ちゅ……）
（息多めに、色っぽく）……今日本気で落とす気だから」

※主人公、匡輝の真剣なトーンにドキッとする。

匡輝「（主人公が反応したのを見計らって奪うようにキス）んッ
んんっ……！（ちゅっ）
んっ！　ふんっ！（じゅるっ…）ふ……んんぅっ……！
はッ……んっ、んんっ！（ちゅ）んっ！　んっ！（くちゅ、ぺろっ）

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

あぁっ……やっぱ……（ちゅぅっ）」

匡輝「（唇を離し、至近距離で熱っぽく）なあ、きもちぃ……？
ぎゅーって締め付けてくるの、ほんとに気持ちいい……」

匡輝「（耳や頬、鼻や唇、首筋に熱烈なキスを繰り返す）んっ……ん（ちゅ）
ん……はぁっ…ン……（ちゅ）ん。ん。ん…（ちゅ）んむ……
（じゅるっ…）はぁっ（ちゅ）んんッ……！」

匡輝「……はぁ（一息。律動を緩やかにして、至近距離で主人公の顔を見つめる）」

※主人公「（熱視線が気になって）ん……なに……？」

匡輝「ん？　……お前のやらしー顔見てる（口にキス）ん……。
……どんな顔してるか自覚ある？　俺のので擦られて、
〝感じたくないのに気持ちいい〟って、蕩けた顔して困ってる。
カリがひっかかるの、そんなに気持ちいい？（実際に擦ってみせながら）
ココ。引き抜くときにひっかかるココね。ココっ……。
ココ擦ってると、〝あんっ……♡〟って切ない顔になってさ……」

※主人公「（悶えて）あんッ……！」

匡輝「ンンっ……！　あーかわい……。
（キスしながら再び激しく律動）んっ！　んっ！　んっ！
ふんっ！　ふんっ！　ふっ……（じゅるっ…）ふ……んんぅっ……！
はッ……（ちゅ）んっ、んっ、んっ！　んっ！　んっ！（くちゅっ…）」

匡輝「旦那じゃないのにね？　んッ……！
自分の男じゃないのにねっ……んッ！　……っ……。
チンコとマンコ擦り合わせて気持ちよくなって、悪い女……。
……でもそれってさぁ。俺が相手だからじゃないの？」

匡輝「んっ！　んっ！　あっ、あ……ん……ねぇ。
俺だからでしょ……？　んっ！　んっ……！」

匡輝「んッ……（主人公の体を抱き込んで激しく腰を揺すり、耳に唇を寄せて）
……俺だからって言いな。ほら。
ふっ、ふっ、んん……〝匡輝くんに抱かれて気持ちいい〟って。

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

〝ずっとこうしてほしかった〟って……言いなよ……っ」

※主人公「（浮気してる気分になり、後ろめたさから）もっ、早くイって……！」

匡輝「はぁ…？

〝早くイって〟って、なに。投げやりじゃない？　腹立つなぁ…（耳舐め）

……このままイっていいんだ？　ナカにいっぱい出しちゃうけど」

※主人公「えっ（出してほしいけど、設定上は出されたらまずいと思い逡巡）」

※同時に、主人公は中出しを意識させられたことで膣で陰茎を締め付けてしまう。

匡輝「（膣を締められたことで感じて）んぁッ……！　はぁっ……はッ。

やらしー……中出し期待してマンコひくひくさせてる。（突く）んっ……！

（反対の耳に移動して）はぁっ…（囁く）……熱いの欲しいの？

（耳舐め）いいよ……避妊してないけど。俺はいいよ」

※主人公、その設定で出されるのはまずいと思い抵抗を始める。

匡輝「（主人公の抵抗をものともせず、耳を舐め続ける）なんで暴れるんだよ。

自分が〝早くイって〟って言ったくせに…（ちゅっ…れろっ……）

んッ……動くほど食い込むよ？　ほら。（挿入を深くしながら）

亀頭が子宮口近くにくっついて……（感じて）ん……っ……あー……」

匡輝「（奥で触れ合う感触に興奮しながら）っ……ココ、すごい……。

ンンっ……すごい吸われてる感じ……あぁっ……。（ボソボソと）お前は？

普段ココまで深く入れられることって無いだろ。どう……？

んっ……。ココの、チンコの先がぶつかったところをさ。

押し潰すようにグリグリッ……って…！」

※主人公「っ……んんぅっ！（軽い絶頂）」

匡輝「ははッ……イってやんの。そうだよなぁ……こんなに奥を擦り合ってさ。

イケナイことしてる感じが最高に気持ちいぃっ……

（奪うように荒々しいキスをしながら律動）

んっ、んっ、んーッ……！（ちゅぅぅっ）……ぷはっ……（ちゅっ）

はっ、はっ、はぁっ、あぁっ…！（ちゅっ）んっ！

んんぅっ……（ちゅっ）んっ！　んっ！　んっ……！」

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

※主人公「んんっ！　んっ…あんっ……ダメ！　またっ……」

匡輝「また？　またイく？（腰の振りをわざと早くして、そのままガツガツ犯す）んっ！　んっ！　んっ……！（気持ちよさそうに呻いて）あーっ……！聞いてこの音。お前のマン汁の音っ……ん……んっ！　んっ！　はぁ……。好きでもない男に抱かれてこんなんなるかよっ……！」

※主人公「（反論しようと）これはっ……！」

匡輝「（興奮状態で早口に）あー無理無理。何言ってももう無理だから。認めな？　俺のカラダが一番気持ちいいって。旦那のチンコよりも感じちゃうって……！（唇をむしゃぶるキス）ん…！このまま奥グリグリするからもう一回イこ？　キスしながら（ちゅうっ）ほら頑張って……（亀頭で奥をグリグリ）んっ……！（キスしながら気持ちよさそうに呻く）んむ……んんッ（ちゅうぅうっ）ンん……（ちゅ）ぉ……（れろれろ…）んーッ…（れろ、ちゅっ…）」

※主人公、匡輝がグリグリするのに合わせて複数回の絶頂。

匡輝「おぉっ……（ちゅっ…）締め付けヤッバ……んんっ…！（ちゅうぅうっ…）んむ……んんッ（ちゅうぅうっ）…んぉ……ン……（ちゅ）ぷはぁ……。（イってる主人公に構わず腰を振り続け、耳元で呻く）あー……気持ちぃ。腰止まんない……（ねっとり耳舐め）んぉ……ん……」

※主人公「っ……もうイってるから！　止まって！」

匡輝「（熱に浮かされたように）無理……無理だって。俺まだだもん……。はー……イって痙攣してるナカ気持ちー……。ぜってぇココに出す。出す……孕ませる……っ……」

※主人公「だめぇっ……」

匡輝「（主人公の耳元で息を乱しながら、腰は激しく振り続けて）んっ！　ふっ！　ふー……なんで？　やなの……？はぁ、はぁ、はぁっ……あっ、あ……っ……俺と赤ちゃんつくろ……？　っ、っ、あっ、っ……！　んんっ……！（耳に唇をつけ、ヒソヒソと）……俺にしとこうよ……」

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

※主人公「あっ！　あっ！　も……許してっ……」

匡輝「（喉で笑って）ははッ……許して、だって。
イきっぱなし怖い？　怖い？　（楽しそうに）……許さない。
俺の体でもっとイって（甘えて耳舐め）もっと俺のカラダに溺れて……」

※主人公「（ゾクゾクしながら感じて）あぁんっ……」

匡輝「（ゾクゾクして）あー感じてる……可愛いっ……。
（耳の中を舐めながら腰を振って）
ふんっ！（ちゅ）ふっ！（ちゅっ、れろっ）んんっ……！（ちゅぅぅっ）
んッ……！（じゅるっ…！）もっととろとろな声聞かせろよ……っ。
なぁ。旦那にも聞かせないような下品な声聞かせて……？
んっ！　んっ！　んんっ！（ちゅぅぅっ）あぁっ……ん……」

※主人公、小刻みに絶頂を繰り返し腰をビクビクと震わせている。

匡輝「（反対の耳に移動し、抱き込んだまま腰を打ち付けて熱っぽく）
好き……好き。今でも好きっ……。ずっと繋がっていたい……。
パンパン突き続けて、お前のことずっと喘がせてたいっ……（耳舐め）
んっ、はぁっ、あぁっ、あぁっ……（ぢゅっ）んっ、ん！（ちゅ、ちゅ）
……なあ、お前は？　はっ、はっ……お前は俺のことどう思ってんの…？
（掠れた声で色っぽく）好き……？」

※主人公「っ……そりゃぁ……（〝好き〟と言いかけて躊躇い）でもっ……」

匡輝「（切実そうに）ん……はっきり言えって……あっ、あっ、あっ……（耳舐め）
好きって言って（ちゅっ）旦那よりも好きって言って……（ちゅぅっ）
こんなにマンコきゅんきゅんさせてさ（ちゅっ）絶対両想いだろ…（ちゅ）
俺でいいじゃん、もうっ……
（熱に浮かされたように耳元で喘ぎ、しばらく夢中で腰を打ち付ける）
ふっ！　んっ！　はぁっ……あッ…んっ！　んっ……！
んっ！　んっ！　あぁっ……うッ……ふッ！　んっ！　んんっ！」

匡輝「（耳へのキスを交えながら）ああ…っ…このまま（ちゅぅっ）
このまま、俺のカラダに押し潰されながら、中出しっ……（ちゅ）
（興奮気味に煽って）逃げらんないな？（ちゅっ）

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

ほんとに中に出されちゃうよ？（ちゅっ）ほらほらほらっ……！
ふんっ！　ふっ！（ちゅ）あぁっ、んんーっ……！（ちゅぅっ）出すっ……」

匡輝「出すからほらっ……中に出されながら俺に〝好き〟って言って…？
（唇を貪る）んっ、はぁっ、あぁっ……んっ、ん！（ちゅ、ちゅ）
出すよっ…（ちゅっ）ふんっ！　ふっ！（ちゅ）マンコ締めて…（ちゅぅっ）
あっ！　あっ！　あっ…！（ちゅっ）好き…？　なぁ好き？　好きっ……。
（我慢できず）あ、無理…も…イくっ…イくイくイくイく、出すっ……！
イくっ……！　イぐっ……！んんッ……！（果てる）」

匡輝「んんッ…（ちゅぅぅっ）んむ…んぉ…おぉっ……ンぅ……（ちゅ）ん……。
あー…めっちゃ出てる……（れろっ…）んーッ…（れろれろ、ちゅっ…）
気持ちよさそうな声……ん……」

匡輝「はぁっ、はぁっ、はぁっ……はー……出したー……。
（自分の体を起こす）んッ……（そっと陰茎を引き抜く）」

匡輝「（主人公の膣から垂れる自分の精液を見て）あ。垂れてきてる……。
奥に出したのに……出しすぎたかなぁ」

匡輝「（ベッドサイドからティッシュをとる）ん……
（自身の陰茎を拭きながら）はー……
結局最後まで、俺のほうが好きとは言ってくれなかったねぇ……。
よっ、と……（ティッシュを丸めてゴミ箱に放る）」

匡輝「（ズボンを穿いてベルトを留めなおす）はぁ……ん……っと。
（主人公に背を向けてベッドに座り、スリッパを履きながら）
あと一押しな気がしたんだけど……。
もうちょっとで心まで俺のものだって、手応えあったんだけどな。
やっぱそう上手くはいかないか……（立ち上がる）」

匡輝「（撮影していたビデオカメラを操作しながら、気だるげに）
撮影はもういいね。録画止める（ボタンぽちっ）
……はーいお疲れ様でした。いい絵が撮れたんじゃない？
旦那、喜んでくれたらいいね」

匡輝「（再びベッドに戻って膝を突き、主人公に覆い被さる）
（額にキス）ん……」

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

匡輝「……また来る。いつでも呼んで。
（耳元にコソッと）いつでも二人でまた悪いコトしよ？（笑）
（普通の距離に戻り、主人公の頭をわしゃわしゃ撫でて）じゃあね」

匡輝「（そのまま背を向けてドアに向かって歩き、
ドアを開けて寝室から退場）」

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

【トラック4】祭のあと

場所：主人公と夫の寝室／　昼

※前トラックの続き。主人公は中出しされたままひとり寝室に取り残された。
　匡輝が退出した直後、ゆっくりと起き上がってベッドの上で座る。

※長かった寝取りパートが終わり、この後は種明かしの感想戦。
　しばらくの沈黙のあと、勢いよく寝室のドアが開いて匡輝が再登場する。

匡輝「（先ほどまでとは真逆のハイテンションで駆け寄って）……お疲れ～！」

匡輝「どうだったどうだった？　寝取られプレイ興奮した？　ドキドキした⁉　他の男に抱かれてる気分味わえた⁉」

※主人公「（ジト目で）……戻ってくるの早くない？　余韻も何もない…」

匡輝「えっ……うそ。戻ってくるのが早すぎたか……。
（バツが悪そうに）……え～、だって……早く感想聞きたいじゃん……
（ベッドの上に座る）よっ、と……」

匡輝「（無邪気に）俺、それっぽくできてた？　始める前は自信あったんだけど、いざインターフォン押すときになると急に緊張してきてさ……」

※主人公「自分が言いだしたくせに！」

匡輝「（苦笑して）まあ、うん。たしかに俺が言い出したことなんだけど……。
いやー、想像以上に役に入り込んじゃったな～。
〝昔振られた女の子に寝取り役をお願いされる男友達〟。
ちょいちょい事実を織り交ぜたもんだからもう、感情のりまくちゃって」

匡輝「（昔を懐かしみながら、しみじみと）
大学時代にきみに告白して振られた伊南匡輝は、
その後も諦めずに猛アタックを続けた甲斐あって
夫の座を手にしてるからねぇ。
（ずいと顔を近づけて）どう？〝お前〟呼び新鮮じゃなかった？
なんかときめいてるように見えましたけどー？（笑）」

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

※主人公は照れて怒り、匡輝をばしばしと叩く。

匡輝「（叩いてくるのを楽しそうに受け止めながら）お、わっ、ちょっ……（笑）も～（笑）いいじゃんかときめいたって。〝そういうプレイ〟だったんだから」

※主人公「……ねぇ」

匡輝「ん？　なに？」

※主人公「そもそも、なんでこんなことしたいと思ったの？」

匡輝「えっ、今更それ訊く？（あらためて説明するとなると少し困って）えーと……。〝なんでこんなことしたいと思ったか〟って言ったら、そりゃ……。寝取られに興味があったから、としか」

※主人公「（怪訝そうに）ほんとに～？」

匡輝「いやほんとだって！　嘘つく意味！　むしろこんなに正直に性癖を打ち明けてるのになぜ疑う！」

匡輝「こんなことときみに話すのもどうかと思うけど、〝寝取られ〟ってもはや一大ジャンルなんだよ。某フンフサイトではユーザーに人気のキーワード年間第①位！　男としてそりゃ～どんなもんか気になるじゃんか！」

匡輝「でも、だからって実際に他の男がきみを抱くとか絶対ヤだし……きみにそんな負担もかけたくないしね。〝じゃあ俺がきみを寝取ればいいのでは⁉〟って思いついたときは〝俺天才か⁉〟って思ったんだけど……（ちらっと主人公の反応を見る）」

※主人公、困った顔で笑う。

匡輝「（察して）あー……まあ……きみはヒいてたか。ははは……」

※主人公、ベッドの上で四つん這いになって乗り出し、匡輝の顔を覗き込む。

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

匡輝「（近づいてきた主人公に反応して、優しく）ん？　どうかした？」

※主人公「興奮した？」

匡輝「ああ、うん（笑）　めーっちゃ興奮した……（唇に軽くキス）ん……。
……途中から完全に入りこんじゃっててさ。
本当にきみが手に入らなかった世界線だって思い込んで、
勝手にめちゃくちゃ切なくなってた。
やーばいね、あれは……いくらでも抱けそうだった」

匡輝「……きみは？　興奮できた？」

※主人公「（素直に認められず）うーん……」

匡輝「（主人公の照れを見抜いて楽しげに）あれぇ？　微妙な反応だなぁ。
（耳に唇を寄せて色っぽく囁く）……絶対興奮してたよ。
きみもちゃーんとあのシチュに入り込んでた。
〝段々気持ちよくなってきて困ってる人妻感〟出てたもん（耳にキス）
エッチだったぁ～……マジで孕ませてやろうかと思った……（ぢゅっ…）」

※主人公「っ……もうプレイは終わりだから！（照れて顔を背ける）」

匡輝「（ぽかんとして）は？　〝もうプレイは終わり〟？
え～、何言っちゃってんの？　んなわけないじゃん」

※主人公「（逆に驚いて）え？」

匡輝「いや、だって……。まだ、お清めエッチが残ってますけど」

※主人公、絶句。

匡輝「嫉妬した夫にめちゃくちゃにされるまでが寝取られプレイだよ？
ってことでぇ……（耳に唇を寄せ、可愛く）お風呂いこっか♡」

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

【トラック5】???〈EXラウンド〉

場所：自宅のお風呂／夕

※服を脱いで浴室に入った2人。
お湯を張った浴槽に脚を浸からせ、浴槽の縁に腰かけて座る匡輝。
匡輝は自分の膝の上に主人公を座らせ、後ろから体をいじっている。
※挿入済み。繋がってから既に数分が経過し、ゆるゆると出入りしている。

匡輝「（首裏あたりで、主人公のナカを堪能しながらしみじみと）あ～……気持ちぃ―……」

※主人公「っ……お風呂の話？」

匡輝「んなわけあるか（笑）　脚しかお湯に浸かってないのに。お風呂の話じゃないです～。きみのナカの話～（言いながら露骨に律動してわからせる）んっ……」

匡輝「あッ…んんっ……。さっき抱かれまくったから、ナカ柔らかくなってる……。（耳裏に口をつけて）きみも気持ちぃ？ね。こうやって浴槽のフチに座ってさ。俺の膝の上でばっくり脚開いて……繋がってるトコも丸見え。よく見てよ……んッ、んッ……。さっきの男のチンコと俺のチンコ、どっちが気持ちいい……？……って、両方俺か～～（笑）」

※主人公「（呆れて）もうっ……」

匡輝「怒るなよ……（耳裏にキス）さっきも言ったけど、ほんとに興奮したんだ。すげぇ嫉妬した……」

※主人公「……それはどっちの感情？」

匡輝「え？　ああ、たしかに……どっちだろ？きみを手に入れそこねた男友達の感情なのか、きみを知らない男に奪われた夫の感情なのか……。……んー。どっちもかなぁ。なんか、入り混じってた。

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

他の男と結婚したんだと思うと本気で腹が立ったし……。
同時にさ。夫としての俺の意識もやっぱどっかにあるわけで。
いつもより感じてそうなきみの顔見てたら……なんていうか……」

※主人公「……なんていうか？」

匡輝「……なんていうか、めちゃくちゃにしてやりたくなった。
抱いてるのは結局俺なんだけど。
……正直〝ヨがりすぎだろ〟って思った。いつもあんなんじゃなくない？」

※主人公「（困って）そう言われても……」

匡輝「（低いトーンで）……実は、ほんとに他の男に抱かれてみたかったりする？」

※主人公「っ……そんなわけないでしょ！」

匡輝「ほんとに？　（コソコソ声で）……今マンコ〝びくっ〟てしなかった？」

※主人公「んっ……してないっ……」

匡輝「（ゆるゆると律動を始めて）したよ絶対……んんっ……なに？　図星……？」

匡輝「（反対の耳の裏に唇をつけて、低く責め立てるように）
ん……浮気エッチ気持ちよかったの。ん？
怒らないから正直に言ってみなよ。気持ちよかった？」

※主人公「ふざけすぎ！（身をよじって抵抗）」

匡輝「（主人公の抵抗を抑えこんで）んッ！　ふざけてないっ……。
暴れないで。危ないから。
……それに、お清めエッチがまだ終わってないんですけど。
（耳を舐める）はァ……ん……（ちゅるっ…）」

匡輝「（嫉妬してる低い声でボソボソと）
乳首もクリもいっぱい触られたんだろ。ほら、上書きしないと……。
一番好きなやつしてあげる。奥をズンズン突きながら……ぁっ……
ん……ちょっと爪を立てて、
乳首をカリカリカリカリカリ……」

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

匡輝「〝あっ、あっ、あん……〟
……ふふっ。気持ちよさそ……好きだもんねぇコレ（耳にキス）
おまんこ気持ちよくなってるときに乳首カリカリされるの。
じゃあ、コレは？
もう片方の手で、繋がってるとこの真上にあるクリトリスをー……
クニクニ、クニクニ、クニクニーって……」

※主人公、強い快感に匡輝の膝の上で悶える。

匡輝「〝あっ、だめだめだめ、気持ちいっ……〟……だって（笑）
たまんないでしょ。おまんこも、乳首も、クリも。全部一遍に攻められて。
（反対の耳に移動して）……俺も気持ちいいよ。
カリカリ、クニクニするたびにナカがうねるから……ぁっ…んんぅ……っ」

匡輝「（膣のうねりに感じて興奮しながら、腰を動かし指でいじるのを止めずに）
はぁっ、あぁっ……カリカリ、カリカリ、カリカリカリ……。
乳首ぷっくりしてる。むしゃぶりつきたい……（代わりに耳舐め）あむ…。
ん……（じゅるっ…れろっ…）んんっ……。
ん……クリもすごいね。きみの愛液でぬるぬるにした指の腹で、
クニクニクニーってしてたら……あっ……ん……〝ピン！〟って勃起して。
尖ってて……。ココもしゃぶりたい……（耳舐め）」

匡輝「チンコ入れられて気持ちよくなってるきみの、
一生懸命勃起してるクリをべちゃべちゃに舐め回したい（耳舐め）
……でもそうなると、他の男に抱かせないと物理的に無理なんだよな。
それは違うんだよ。俺が気持ちよくしたい（ちゅっ）ん……全部俺がしたい。
俺じゃないと嫌……体が分裂すればいいのに……（れろ…ちゅるっ…）」

匡輝「はぁ……。……ねぇコレ、上書きできてるかな。
さっきより気持ちいい？　どう？（耳舐め）んっ……。
乳首もクリも、いじられすぎて感覚なくなってきたんじゃない」

匡輝「（寂しそうにぽつりと）俺はいまだにきみに夢中なのになぁ……。
きみは他の男に抱かれてると思うほうが興奮するんだ？　あーあ……」

※主人公「ちがっ……あんっ！（与えられ続ける刺激のせいで前屈みに）」

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

匡輝「（前に倒れそうになる主人公を抱え支えながら）んっ……なに？　ちがう？　じゃあ逃げないでもっと感じてよ。俺のチンコ食い締めながら乳首とクリで気持ちよくなって……？　ほら。カリカリカリ、カリカリカリ……ってしながら、いっぱい突き上げてあげるからっ……」

匡輝「（しばらく夢中で律動を繰り返す）んっ……はぁっ……んっ！　んっ！　ん……んんっ……！」

※主人公「あぁッ……！（繋がったまま潮吹き）」

匡輝「（首裏に唇をつけて）はぁ……ははっ、潮噴いちゃったの？　（律動をやめずに）んっ！　んっ……！　……お風呂だから漏らしていいよ。浮気エッチより感じて……？　ほらぁっ、Ｇスポット……。ズボッ、ズボッ……って刺激しながら、思い切り乳首をカリカリカリカリカリカリカリ……」

※主人公「んぅッ……！（潮吹きが止まらなくなる）」

匡輝「んっ、んっ……！　はー……ハメ潮えっろ……んっ！　はぁっ、はぁっ、んんっ……！」

※主人公「（体をガクガク震わせて）ダメ……もう、ほんとにダメ……」

匡輝「（ドSに）ダメじゃないでしょ……漏らしながら突かれるのヤバくない？　体ガクガクしてる。全身気持ちぃ？　イっちゃう？　……やらしいね。さすが。浮気エッチで感じちゃうだけある」

※主人公「だから、それは違うっ」

匡輝「ンッ……！　だから、どう違うの。ちゃんと言って？　（答えられないくらい激しく突き上げる）ん、ん、ん、ん、あっ……！　ん！　んっ、んんっ……！」

※主人公「あっ！　あっ、あぅっ、匡輝、くん、にっ……」

匡輝「うん？　〝匡輝くんに〟何。

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

ふっ、んっ……んっ！　んっ！　息あがってるよ。大丈夫？　んんっ！
ちゃんとしゃべってよ……」

※主人公、ぐるっと匡輝のほうを振り返り、怒った顔で睨みつける。

匡輝「（我に返ってパッと動きを止め）……あ、やば。
ほんとに怒った……？」

※主人公「（キッと睨みながら涙目で）
匡輝くんに口説かれたら、そりゃあんな風になるよ……」

匡輝「（予想外の答えに驚き、ぽかんとする）えっ。あっ……。
……俺に口説かれたから、ですか。あんなに感じてたのは……あー……」

匡輝「（後ろからぎゅっと主人公を抱きしめ、首裏に頬を摺り寄せながら反省）
……ごめーん、やりすぎた～……はぁ～。
よく考えたら、そうだよな……どんだけ間男を演じたって俺は俺だし。
ちゃんと俺自身にときめいてくれたんだよな……うん……」

匡輝「はぁ……（深呼吸し、主人公の体を抱きなおして顎を肩にのせる）
（落ち込んで）さっきさー。
〝なんで寝取られなんてしたいと思ったのか〟って訊かれたじゃん。
……正直に話すと、自信がなかったのかも」

※主人公「自信？」

匡輝「うん。結婚してしばらく経つのに変な話なんだけどさ。
ほら……プレイ中も話題にあがったけど、俺、一回振られてるだろ？
かなりお願いして付き合ってもらった経緯があるし……きみ優しいからさ」

※主人公、静かに匡輝の話に耳を傾けている。

匡輝「結婚に対しても俺のほうが前のめりだった自覚があるから。
だから、きみのほうはどのくらい俺のこと好きなんだろうなって……。
どこまで許されるか試してみたくなって、
でも他の男に触らせるのは絶対にイヤで。
わがまま言ってみたり……ね」

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

匡輝「困った夫でごめん。（しみじみと）でも……愛されてるねぇ、俺。
あんなワケわかんない茶番に付き合ってくれる奥さん、なかなかいないよ」

※主人公「そうかな？」

匡輝「自覚ないの？（笑）　レアだよレア。
俺が〝疑似寝取られしたい〟って言い出したときは〝えぇーっ！〟って顔してたのに、なんだかんだ乗ってくれたじゃん。
そういうトコがだーいすき……（覗き込んで頬にキス）ん……。
……愛してるよ」

※主人公、繋がったままなことを意識してビクッと感じる。

匡輝「（主人公が感じたことに気付いて）んぁ……ははっ（笑）
繋がったままだった（笑）今ビクッてしたね……はぁっ……。
（急に色っぽく）……当たり方変わった？（優しく腰を揺すり始める）」

匡輝「（優しく腰を揺すり、頬や耳にキスしながら）いとしー……気持ちぃ。
（ちゅっ、ちゅ…）激しく動かなくても、このままイけそう……（ちゅ…）
〝奥に出したい出したい〟ってナカでビクビクしてるのわかる？」

※主人公「（切なそうに喘いで）あっ…わかるっ……」

匡輝「（気持ちよさそうに耳舐め）あむ……（じゅる…れろっ…）んん……。
……射精が近くなったときに、
それに応えるみたいに腰揺らしてくれるトコも、好き……（ぢゅっ…）
求め合ってる感じがする。俺の精子欲しがってくれてるんだなぁって……
（ちゅっ、じゅるるっ…）ん…はぁ……好き……（ちゅぅっ）
こんなん他の男に触らせらんないよ……（耳の中をぐちゅぐちゅ舐める）」

匡輝「ね……俺の手握って。両手。
（主人公に自分の両手をそれぞれ握らせる）そう……。
そのままもっと俺のほうに凭れて。……奥に出すよ。全部カラダ預けて」

匡輝「あっ、あっ、あっ、あっ……んんっ……（耳舐め）あぁっ、イきそっ……。
んんっ（ちゅぅっ）……きみは？　イけそ？（ちゅ）指に力入ってる……」

※主人公「ん、私も、イくっ……」

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.

匡輝「ん……じゃあ一緒にイこ……。
（主人公の手を握りながら小刻みに腰を揺らし、ラストスパート）
んっ、んっ、んっ…（ちゅっ、ちゅ）あ…んっ……あぁっ……！
（ちゅっ、れろれろ）ん……んんっ！　んんっ（ちゅ）
んっ！　ふっ！　ふっ！（れろっ）ふっ…（ちゅぅっ）んぅっ……！
あっ、ふ……（ちゅ）んぅっ…！（ちゅっ）ん……んんっ！　んんっ！
（ちゅ）は……っ……あ……イく。イくイくイくっ……！（ちゅぅっ）
はぁ…こっち向いてっ……！
んんっ！　んんぅッ……！（キスしたまま果てる）」

匡輝「（射精が止まらず、キスしたまま苦しそうに呻く）
んっ、ふぅッ……（ちゅ）んっ！　んふっ…んんぅ……（ちゅぅっ）
（ゆっくり唇を離す）っは……はぁっ……」

匡輝「はぁっ……はぁっ……はー……
ちょっと、このままお湯浸かろ……掴まって。
（主人公を抱え、一緒に浴槽の縁から下りお湯に浸かる）ん……」

匡輝「はぁっ……はぁ……（主人公の体を強く抱きしめて）
（息をついて小声で）はー……幸せ……」

匡輝「この幸せを大事にしなきゃねぇ……（耳にキス）
きみが俺の奥さんで、今でも一緒にいてくれてるってこと（ちゅ……）
忘れないようにしなくちゃ。全然当たり前じゃないんだって……」

匡輝「（耳にたっぷりとしたキスを繰り返す）」

／END

Copyrighted material. Do not reproduce without permission.